

大杉谷

風のたより

平成 25 年 11 月 (第 55 号)



==山里ふれあい自然薯収穫祭==



←古ケ丸を背にハイチーズ

↓今年の出来栄は？



今年の夏、雨が少なかったので心配していた「やったる会」のメンバーの皆さん。
11月4日の「山里ふれあい自然薯収穫祭」に集まった皆さんが、収穫された自然薯に
触って大歓声に、そっと胸を撫で下ろす会のメンバー。

この日は、県内外から多くの方が訪れ、スタッフ合わせて総勢80人以上が「山芋の
里」で自然薯の収穫体験と自然薯料理を堪能しました。

このイベントは、自然体験型交流として大杉谷のファンを育てる目的と遊休地対策も
同時に行っています。

家具固定希望世帯の募集について

高齢者等の世帯を対象に転倒防止のための器具を1世帯につき3台まで無料で取り付けます。詳細は回覧にて照会しておりますが、出張所までご相談ください。

記

対象世帯：災害時要援護者のみで構成されている世帯

募集期間は**11月29日まで**です。

応募世帯が30世帯を超えた場合は抽選となります。予めご了承ください。



問合せ先：総務課 82-3781

大杉谷出張所 78-3001

肺炎球菌ワクチン予防接種の費用を一部助成します

「肺炎球菌ワクチン」は、高齢者の肺炎の原因となる病原体の中で、最も頻度の高い「肺炎球菌」による肺炎を予防するワクチンです。

ワクチンの効果は、5年から8年くらいといわれています。

この予防接種は、義務ではなく本人が希望する場合に接種できます。ワクチンの効果や副反応等を十分に理解した上で接種してください。

対象者：①満65歳以上の方 ②満64歳以下の方で、慢性心疾患、慢性呼吸器疾患、慢性腎不全、糖尿病、脾臓摘出、肝臓病等のため、医師が予防接種を受けることが必要と認めた方。ただし、肺炎球菌予防接種に健康保険等の適用のある方は除きます。

助成金額：3,000円 ※一人につき1回限り

申請方法：接種後に、次の書類等をご持参のうえ、健康ほけん課か出張所へ提出してください。

- ① 接種した領収書（医療機関が記入します）
- ② 交付申請書・印鑑・通帳

問合せ先：健康ほけん課 電話82-3785

人口の動き（前月比）

住基人口	世帯数
268	147
(-1)	(-1)

男	女
113	155
(±0)	(-1)

あとがき
先日、「人口の動き欄」の人数がおかしくないか？と問い合わせを頂きました。調べるみると単純なミスを犯しており、数字が間違っております。誠に迷惑をおかけいたしました。毎月、人口の動きを確認していただいているそうです。
私が大杉谷出張所へ配属になった時は299人で、私も毎月人口の変動を気にしていましたが、私の住む集落も寂しくなってきた、今一番大事なことは、集落に住む者同士の「絆」が大切だと大杉谷をみて思うようになりました。

〔野呂〕

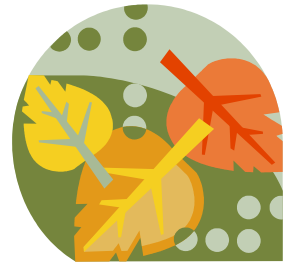


集落支援員あらいの諸行無常な日々

自然豊かな土地で生活費を稼ぐだけの生き方ではなく、社会に役立つこと、大切だ
と思うことをしながらイキイキと暮らしたい思い、去年の10月末に大杉に来て1年
の月日が経ちました。慣れないことも多く、落ち込むこともあります。大杉谷の暮
らしは長年自分が探し求めていた暮らしだとしみじみ感動することばかりです。

「半農半X（はんのうはんえつくす）」というライフスタイルが、近年注目されてい
ます。自分や家族が食べる分の食料は小さな自給農でまかない、残りの時間は「X」、
つまり自分のやりたいこと（使命）に費やすという生き方です。農のある暮らしをしな
がら、自分が大切だと思うこと、大好きな仕事をする事で、精神的に満たされるとい
うこの半農半Xという暮らし方は、収入が減少しても心豊かな暮らしをしたいという人
たちから共感を集めています。

戦後の日本は、「経済性」や「効率優先」し過ぎた結果、各地で
過疎化現象が起きています。大杉谷に来てからも、ここには働く
ところもないし、町へも遠いし不便だということをよく聞きます。
しかし、私のような都市生活の限界性に気付き、半農半Xを志し田
舎へ移住した者にとっては、限界集落と呼ばれる大杉谷の暮らし、幾
つになっても生きがいをもってイキイキと生きる地域の皆さんの姿に
こそ希望の光を感じます。



多くの方が長びく不況や大震災などの自然災害や原発の事故を通して、これまでの
画一的な価値観や生き方に疑問を持ち本当の「豊かさ」について考えるようになったの
ではないかと思えます。ここ大杉谷では昔から当たり前に行われていた自給自足の技術や
暮らし、助け合いの文化が見直されています。川で魚を獲ること、シカやイノシシの狩猟、
近くの山の木を薪や炭にしたり、養蜂など昔ながらの技術を習得したいという人も確実に増
えつつあります。地域の皆さんの生きる姿を参考にして、私も「半農半集落支援員」
活動をがんばります！

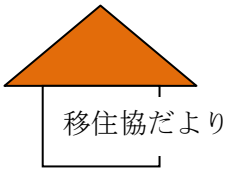


ひとこと巡回報告

桧原の伊藤さん夫妻が、自宅でへんぼくと押し花
のギャラリーをオープンしたそうでお宅を訪問し
ました。身の周りの自然の木々や花々をおしゃれに
アレンジして暮らしの中に取り入れ、楽しみながら生
活するのは素敵なことですね。

「ギャラリー幸」は日曜に開いています。
お時間のある時に訪れてみてはいかがでしょうか。





空き家の管理でお困りでないですか！

大杉谷移住促進協議会では、地区の過疎化を緩和し、地域の方々が安心して生活が続けられるよう、活動を続けています。

空き家の管理についてご相談下さい

残したい大切な空き家は、管理についてご相談いただくか、賃貸・売却へのご登録をお願いします。まだご在宅でも「荒れた廃屋にしたくない」とお考えの方のご相談にもうかがいます。

都会では近年、増え続ける空き家の管理サービス会社が出来始め、手入りを代行してくれます。しかし、ここ大杉谷では空き家は近くに頼る人が居なければそのまま放置され、多くは廃屋への道をたどるのが現状ではないでしょうか？



この写真は、他の地域で報道用に使用されたものです。

昨年、空き家を相続されている遠方の方が、賃貸を望まれた事がありました。しかしすでに非常に荒れており、景観も悪く、賃貸どころか修理もためらうような状態でした。

人が住まなくなった家屋は驚くほどの早さで荒れ果てていきます。わずか数年で換気不足でカビで床が腐ったり、水道などが錆び付いたり、雨風で痛んだ軒先や雨樋を放置したために屋根や外壁から雨漏りが始まった例もあります。

そのため、戻ってきて住もうとする時や、賃貸や売却しようと思いついた時に、高額なリフォームを行わなければならなくなってしまいます。

そうなる前に賃貸、売却、管理について一度ご相談下さい。ご本人様のご意向を最優先にうかがいます。

美しい大杉谷を守るため、よろしく願いいたします。

大杉谷移住促進協議会（事務局 NPO法人 大杉谷自然学校内）
会長 大瀬耕二 事務 福岡美恵子
電話 78-8888 Email ijyu@osugidani.jp